

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ合同研究会
第 24 回 議事録

1. 日 時： 平成 23 年 4 月 16 日（土） 11:00～12:30

2. 場 所： 奈良文化女子短期大学 本館 5 階（第 1 演習室）

3. 参加者： 24 名

4. 内 容：

(1) はじめに

- ①本学WGの紹介（代表 善野、新メンバー 筒井、事務局 水町）（学内参加教員 荒井）
今年度より 2 回生が自主参加。松田 大林 片山 葛城（以上 4 名）
- ②参加者 自己紹介
新規参加者：奈良教育大学教授・院生、奈良市内小学校教員、池田市幼稚園教諭 等
- ③名称の変更 保幼小→幼小連携WG（幼小・・・幼児教育と小学校以降の教育）
- ④会の目的

(2) 発刊のお知らせと執筆協力のお礼

子どもの育ちと学びをつなぐ～保幼小連携 WG 合同研究会の取り組みを通して～
2 年間の取り組みをまとめて発刊。参加者に配付。

(3) 講演 「幼稚園教育と小学校教育」 前田洋一 准教授（鳴門教育大学）

- ①教育課程とカリキュラムについて
- ②潜在的カリキュラムと経験カリキュラムについて
 - ・教師から見ても価値ある学びを目指す。
 - ・ある目標を達成するためにカリキュラムがある。
 - ・接近方法
「工学的接近」と「羅生門的接近」（幼稚園教育はこれに近い）
環境から学ぶ。小学校にはこれが少ない。特に高学年にはない。

(2) 接続カリキュラム（入学後第 1 週目）2011 年度 4 月の実際から

- ①今年度の小学校第 1 学年の実態を情報交換
接続カリキュラム入学後第 1 週の実施状況の報告を通して、成果や課題を明らかにする。
 - ・奈良市立平城西小第 1 学年担任：
登下校の難しさ（保護者も不安）
スタートカリキュラムは、組んでいるが臨機応変が必要である。
 - ・奈良市立佐保小第 1 学年担任：
カレンダーの具合で月曜日から始まり、大変であった。
週末の参観日で、怒濤の一週間であった。時間数の確保が必要である。
汎用性のある本 WG の案を学校に合わせて運用実践している。
- <成果と課題>
- 衣服の着脱等、基本的な生活習慣の確立につながった。
 - ゆっくりと指導をする時間の確保が必要である。

(3) 接続カリキュラム（入学前第 3 週目）2010 年度作成版について

- ◆幼小混合グループでのワークショップをする。
小学校関係者：6 名 幼稚園関係者：8 名 その他：教育委員会 大学教員 院生
4 グループに分かれる。（各 6 名）

第1グループ

- ・多くの幼児教育施設から入学している現状。
- ・まず、これまでの方法等を「聞く。」その中で「よいことをつなげる。」

第2グループ

- ・空間の広がりからくる環境の違いがある。
- ・不安を事前に捉える。

第3グループ

- ・小学校の先生が4月に子どもの姿や反応に「わー。」と驚くことを取り出す。
プラスの面：想定以上にもっている力や育ちを捉えて広める。
マイナス面：想定外の行動、予期しない生活習慣の徹底指導の必要性を確認する

第4グループ

- ・入学前に知っていることがあることが安全・安心につながる。
- ・下校時の課題
通学路は設定されている小学校（非常時の対応を勘案）
登校は集団でも、下校時は学級によって時間差が出てくる事への不安。
一人で安全に帰宅できるために、入学前から通学路を徒歩で親子で歩く。
幼児教育施設で「さんぽ」のとらえ方を見直す事も必要。
入学前の安心 入学後のトラブルを整理することも必要

5. 次回の予定

次回：平成23年5月21日（土） 11:00～12:30

次々回：平成23年6月25日（土） 11:00～12:30

（*定例第3土曜日の平成23年6月18日（土）が、日本生活科総合的学習教育学会のため）